◇ 浜松　静子 さんの介護計画書　　■ 移動・移乗部門　□ レクリエーション部門

事業所名　特別養護老人ホーム　楽寿の園　　競技者氏名　宮原紀子

長期目標 （期間:12か月）	浜松さんが、できる力を生かし、その先にある食事や人とのつながりを楽しみながら、自分らしいデイサービスでの生活を続けることができる

課　題	短期目標		具体的な援助内容・方法		頻度
	目　標	期間	内　容	方法	
体調や疲れ、不安を感じることがあります。一人で休みたい時は静かに過ごし、安心できる時には職員との会話も楽しみたいです。	体調や不安に配慮してもらい、無理をせず安心して過ごしたい。	令和8年8月1日 ～ 令和9年1月31日	①日々の心身の状態を把握し、体調に応じて安心して利用 できるよう支援します。 ②疲労や不安を抱え込まず、無理のない過ごし方を選べるよう支援します。 ③日々の体調や変化をご主人やケアマネジャーとも共有し、安心して過ごせるよう支援します。	① 1．来所時および入浴前にバイタルサインを確認する。主治医の指示により、血圧が〇〇〇／△△以上の場合は入浴を見合わせます。バイタルサインの異常や体調不良の訴えがある場合は、看護職員と連携して本人の状態を確認し、ご主人およびケアマネジャーへ連絡のうえ対応します。 ご主人：電話番号は連絡先一覧赤ファイルに記載 ケアマネジャー：事業所の連絡先一覧青ファイルに記載 2．入浴後は、疲れ、寒さ、皮膚の発赤や違和感などを確認し、体調に変化がある場合は看護職員へ報告します。 3．日常の不安や白内障手術への不安が聞かれた際は、話をよく聞き看護師とも連携し不安が和らぐよう支援します。 ② 1．疲れや不安が見られた場合は、「少し休みますか」「今から移りますか、それともう少し休みますか」など、短い言葉で選択肢を示し、本人の意思を確認します。休憩は静養室を使用する。 2．一人で休みたい気持ちを尊重して見守り、表情や様子から会話への希望を確認します。本人が話したい様子の時は、職員との雑談を提案し、浜松さんのペースに合わせて支援します。 3．活動では、仲が良い利用者と席を近くにするなどの配慮をし、浜松さんのできることを楽しめるよう支援・見守りを行います。 ③ 1．ご主人からお便りノートを預かり、確認する（食事・水分量・服薬状況）。デイからは、バイタル、入浴の有無、日中の活動の様子について記載します。 2．デイサービスでの体調、入浴や移乗時の様子、食事、休息、他利用者との関わり、浜松さんの希望や変化を活動記録としてまとめ、ケアマネジャーへ報告します。	来所・入浴前・体調不良時 入浴後 疲れや気分がすぐれない時 お迎え時 月１回
右側が動かしにくく移る時に不安があります。できることは自分で行い、必要な支援を受けながら、安心して車いすへ移り、食事や他の方との時間を過ごしたいです。	右側の動かしにくさや見えにくさに配慮してもらい、できることは自分で行いながら、必要なところを手伝ってもらって安全に車いすへ移りたい。	令和8年8月1日 ～ 令和9年1月31日	①右片麻痺や見えにくさに配慮し、浜松さんが安心してベッドから車いすへ移乗できるよう支援します。 ②浜松さんの意思を確認しながら、左側の力や自分で行える動作を生かし、必要な部分を補うことで自立した移乗につなげます。 ③移乗後も安定した姿勢と座り心地を整え、安心して食事を楽しみデイサービスで過ごせるよう支援します。	① 1．ベッドで休まれている時は、落ち着いた声の大きさで名前を呼び、急に触れたり起こしたりせず、目を覚まされたことを確認してから声をかけます。 2．移乗前に体調と浜松さんの意思を確認し、「今から車いすへ移りますね。」と短く説明する。表情やうなずきも確認し、納得してから開始します。体調不良やふらつきがみられそうな時は、そのままベッドで横になってもらい、バイタルチェックをし、看護職員に相談します。 3．「お昼の時間が近くなりました。体調はいかがですか」「もう少し休みますか」など、短く分かりやすく伝え、浜松さんのうなずきや返答を待ちます。 ② 【浜松さんの動作について】 浜松さんは寝返りができます。起き上がり時は、ベッド柵につかまるよう分かりやすく声をかけ、右麻痺側を支えます。座位保持には背もたれなどの支えが必要なため、ベッド上では体幹を支え、姿勢の安定を確認します。立位保持も支えが必要で、保持可能な時間はおおむね1分程度です。仙骨部に発赤があるため、移動・移乗時は摩擦やずれに注意し、皮膚状態と痛み・違和感を確認します。 1．職員が先に身体を起こしたりせず、「ゆっくり起きてみましょうか」と言葉をかけ、体調に配慮しながら、浜松さんがご自分でできる動作を待ちます。必要な部分のみ介助し、「しっかり力が入っていますね」などの言葉をかけ、心が前向きになるよう支援します。 2．移乗前に、スライディングボードを見せながら使用方法を分かりやすく説明し、浜松さんの意向を確認します。移乗時は、お手伝いしやすいようベッドの高さを調整します。 3．スライディングボードは、左側のお尻を少しあげてもらい、右側の傾きに注意し使用します。端座位になった際、スライディングボードが差し込みやすいように、サイドレールから腰一つ分の間隔をあけるよう体の位置を調整します。 4．お気に入りのブレーキ補助具はブレーキ解除時のみ使用し、浜松さんが左手で操作できるよう見守り、操作後は、安全のため補助具を外します。思わぬ解除や洋服がひっかかる可能性があるため、常時装着はしません。 5．車いすでの自走は、長距離の移動は大変なので、5m程度を目標にします。 ③ 1．車いす移乗後は、右への傾きや座位のずれ、仙骨部への負担に配慮し、浜松さんに合ったクッションを体の右側に使用し、安定した姿勢を整えます。座り心地や痛み、違和感を言葉や表情から確認します。 2．入浴後の温度差に配慮して羽織物を用意し、浜松さんの希望や体調に応じて、着る、羽織る、ひざにかけるなどの方法を選べるよう支援します。	ベッドで休まれている時 離床時 車椅子移乗時